



1 はじめに（教務主任）

- 本日の進行について（レジュメに沿って簡易に）
- 時間設定について

2 本校の現職教育の概要について（現職教育主任）

○これまでの流れ

- 昨年度「考える力、伝える力」⇒「考える力、伝え合う力」に発展。

○今後の研究授業について

- 物語文で研究授業を行う。
- 単元を通してつけたい力を育てるために、単元の指導計画を指導案に明記する。
- コロナ対策をしつつ伝え合う力を育む取り組みを行う。（今回だと、ペア活動）

3 授業者の反省（授業者）

- 授業者が言葉を発しすぎた。
- 叙述の中から、心情がわかる部分に線を引き、主人公二人の心情を書く活動をした。その活動で、ほとんどの児童が、ワークシートに記入し終わっていない状態でペア活動に入ってしまった。
⇒ 心情がわかる部分すべてではなく、「ここが（一番よくわかる）」というところに線を引いて、そこの気持ちを書かせるという方法もあったと思う。
- ペアの活動は、ほとんど話をする事ができていたが、一部、ワークシートに書くことに気がいってしまっていた児童がいたので、今後指導を継続し、できるようにしていく。

4 研究協議会（グループ協議で話し合い、まとめたものを全体協議で発表、共有した）

【低学年】（良い点◎ 課題△）

①ペア活動のルール（話し方聞き方のルール）

- ◎ ・ペア交流の効果が確認できるとよい。

⇒ （今回だと）自分の意見に付け加える時間をとっていた。

- △ ・高学年のルールにつながる学年に応じたルールが必要

②つけたい言葉の力

- ◎ ・表示が、視覚的にわかりやすい。

（例）・顔の表示を使い、誰の心情を表しているのかわかりやすい。

・ミニボードに活動を明示していた。

③学習マナーについて

- ◎ ・児童の「つぶやき」を、取り入れて、児童の言葉を使って授業を展開していた。

低学年の児童では、どのように「つぶやき」を取り入れていくのか検討していく。

《質問》Q.（ペアの話し合いのルールの中で沈黙しないことを最優先と書いてあることに対して）同じ内容を繰り返し話してでも、沈黙させないのはなぜ

A. 思考を止めないため。話しているうちにいい考えが生まれる。

Q. 顔をしかめるのはいいのか。

A. 聞いた相手が、どう受け取っているか（同じように考えているのか、違う考えを持っているのか）は、伝えてよいのではないか。

Q. ペア交流の後につけたしの時間を、いつもとっているのか。

A. とっている。⇒ペア交流の効果確認

【中学年】（良い点◎ 課題△）

◎全体を通して、指導の積み重ねが生きている

①ペア活動について

◎ [・活動の仕方を示したうえで、継続しているから、話し合いが成立している。
・活動の意図を児童が理解しているので、児童の話し合いが深まっていく。

△ ・活動のレベル別の型があるとよい。

②つけたい言葉の力

◎ ・これまでの授業の流れがわかる壁面掲示

【高学年】（良い点◎ 課題△）

①ペア活動のルール

◎ [・確認してから取り組ませている。
・相手の話を受けて話す、「〇〇さんがいったように～」
・相づちをうつことができていた。

△ ・相手の顔を見て話す、聞くことはまだできていない。

②つけたい言葉の力

◎ [・子どものつぶやきの言葉を生かした授業展開
・これまでの授業の流れがわかる壁面掲示

△ [・児童が、心情が分かると線を引いていた部分の全体での確認は、必要か。
・クラスで主人公二人の心情を読み取る担当を分けて、読み取り、交流する方法もある。

5 指導高評

一宮市教育委員会 学校教育課 指導主事 岩田祥典 先生より

①年度当初に研究授業を行えることの意義

- ・クラスの現状、授業法を示すことができ、共有できた。
- ・この時期に、授業を多くの先生が見に来て学ぶ姿勢を持っている。

⇒ 先生が連携できることの良さ

＝ 連携は安心を生む。教員同士が相談できる関係づくりができる。

②学習の基本について

- ・子どもが話を聞こうとしている 学ぶ姿勢ができてきている。
- ここまでの指導、確認の成果。子どもが指導者を信頼している。
日常の指導、ふるまい、声掛けが指導者への信頼を育てている。
⇒ さらに、どういった、指導がよいのか情報共有が図られるとよい。

③国語の授業について

- ・めあて、まとめまでつながったよい実践であった。
- ・子どもの意見中心にまとめた板書

先生の言葉にこだわった発問が児童の言葉による板書につながっている。

- ペア活動の二つの意義

- 子どもの学ぶ機会の保障
- 答えを意見交流から練り上げる。

どちらの意図で用いるかが意識されているとよい。

- 学びの軌跡のわかる壁面掲示があり、児童の理解を助けていた。

- 「子どもで始まり、子どもで終わる授業」

めあて（学習課題）を子どもが作って解決していく授業を目指す。今回だと、「なぜ、気持ちが変わったのだろうか？」といった問いかけから、児童が（めあて）解決する課題を作れる。このレベルを目指していける。

6 あいさつ（校長）

- 岩田先生へのお礼

- 本校の弱点（不登校対策・現職教育）

⇒ 4月初めから、取り組み、具体的に現職教育の方向を示したのがよい。

指導主事先生にいただいた指導を下に、毎日の授業実践に生かしていきたい。

- 「100回教科書を読んだくらいで、教壇に立つのは子どもに対して失礼です」（大村はま氏）

⇒ 教材研究の大切さ

みんなで考え、みんなで作り上げる喜びが今回の授業実践に見られた。

〈授業の様子〉



〈研究協議の様子〉

